

令和５年度 徳島県立徳島北高等学校 学校評価総括評価表

Ⅰ 徳島北高等学校のスクール・ミッション

英語教育をリードする学校として、英語の４技能をバランスよく高める授業や大勢のＡＬＴと英語のみで過ごす「English Day」、「海外語学研修」などの活動をととして、国際的視野を持った「グローバル人材」に必要な力を育成します。

２ スクール・ポリシー

- (１) 自ら課題を見だし、主体的に学びに向かう力を育成します。
- (２) 知識・技能を活用し、他者と協働して課題を解決する力を育成します。
- (３) 人権を尊重する豊かな心と異文化理解の精神を育成します。
- (４) 確かな英語力とコミュニケーション能力を育成します。(普通科)
- 豊かな英語力とコミュニケーション能力を育成します。(国際英語科)
- (５) 国際的視野を持ち、持続可能な社会の形成に貢献する力を育成します。

３ 「学校目標」(今年度の重点目標)

- (１) 将来を見据え、自ら学ぶ姿勢と自主的・自律的な行動力を育成する。
- (２) 人権を尊重する豊かな心を育成し、好ましい人間関係を築かせる。
- (３) ＩＣＴを効果的に活用し、授業の工夫・改善と充実に努め、確かな学力を身に付けさせる。
- (４) 個性を伸ばし、実社会との接続を意識したキャリア教育を充実させ、希望進路の実現をめざす。
- (５) 国際的視野を持ち、地域社会・国際社会に貢献できる人材を育成する。

４ 本年度の取組

＊ 総合評価：目標を大きく達成…Ａ、概ね目標を達成…Ｂ、目標を達成できなかった…Ｃ

重点課題	重点目標	評価指標（と活動計画）	評 価		次年度への課題と方策
Ⅰ 人権教育	①すべての教育活動を通じて実施	評価指標	評価指標による達成度	総合評価	「人権委員会だより」については、５回発行し、全生徒に配付したが、読んでいる生徒の割合が微増に留まった。次年度は内容の吟味はもちろん、ＰＲに時間を十分とりたいと考えている。
	②生徒・教職員が共に意識高揚	① 「人権意識が高まった」と答えた生徒の割合を85%以上とする。 ②-1 「人権委員会だより」を年間５回以上発行し、読んでいる生徒の割合を70%以上とする。 ②-2 教職員の校外における人権講演会や研修会の参加を一人1回以上とする。	① 94%で評価指標を達成した。 ②-1 47%で評価指標を達成できなかった。 ②-2 評価指標を達成した。	(評定) B	
		活動計画	活動計画の実施状況	(所見) 今年度は、校内外の活動が以前の状態に戻り、様々な活動ができた。夏季休業中の人権委員会の研修では、保護者とともに国立療養所長島愛生園を訪問することができた。生徒の感想文からも、人権問題に対して主体的に考えようとしていることがわかった。	
		① 人権ホームルーム活動や学校行事等で、自分の意見を発言し、他人の意見もしっかり聞くことができるなど、主体的に参加・体験させる。 ② 「人権委員会だより」を生徒主体で発行し、ホームルーム活動などを利用して、人権委員に記事を紹介させるなど生徒主体の活動を活発にする。	① 人権ホームルーム活動でのグループ学習や12月の中・高生による人権交流集会において活発な意見交換ができ、主体的に取り組むことができた。 ② 教室掲示から、全生徒に配付して家庭への持ち帰りを呼びかけたが、読んでいる生徒の割合は低かった。		
２ 学習指導	①学習習慣の確立	評価指標	評価指標による達成度	総合評価	①-1、2 学習時間の確保については、担任や教科担任を中心に進路実現に向け個々に対して具体的にアドバイスを行う。また年間を通して個人生活全般に面談を継続し、担任が具体的なアドバイスを行えるよう、面談で取り上げるべき項目を学年内で共有し、生徒に明示する。 ①-3 補習で扱う内容を精選し、生徒が学力の向上を実感できるような取組を推進する。 ②-1 授業で扱うべき内容と授業外で取り組むべき学習課題を明確にし、家庭学習と授業の連動や授業を通しての学力の向上を生徒が実感できるように、さらなる授業研究や改
	②主体的・対話的で深い学びに向け、指導と評価の一体化による授業改善	①-1 平日の家庭学習（塾等での学習を含む）が1時間以上の生徒を90%以上とする。また、休日の家庭学習（塾等での学習を含む）が「(学年)＋1」時間以上の生徒を80%以上とする。 ①-2 「午後9時までに家庭学習を始める」習慣が身につけている生徒の割合を80%以上とする。 ①-3 1、2年生の学年単位で、補習の出席率を95%以上とする。 ②-1 「学校の授業内容は、自分の学力を高めることに役立っている」と回答した生徒の割合を、80%以上とする。 ②-2 校外模試における各科目の校内平均点が全国平均点以上とする。 ②-3 教員の教科指導研修会への参加率を高め、教	①-1 9月の第2回調査では、学習時間が1時間以上は、1年生80.2% (84.3%)、2年生79.6% (81.5%)、2時間以上は、1年生49.6% (64.9%)、3時間以上は、2年生19.7% (35.2%)であった。(括弧内は休日) ①-2 1年生63.7%、2年生61.2%で1、2年ともに目標を下回った。 ①-3 1年生94.5%、2年生92.4%でやや下回った。 ②-1 1年生95.0%、2年生98.0%で達成できている。 ②-2 ベネッセ総合学力テスト11月では、1年生：国語+0.7点、数学+6.1点、英語+1.4点で達成できた。2年生：国語+1.7点、数学+3.2	(評定) B	
	③生徒一人1台端末の活用を促進して、個別最適・協働的な学びの推進			(所見) ①-1、2 各担任が生徒のことを理解し、細やかな声掛けを行うことができた。新課程の大学入試に対応していくために、今後は教科担当ともしっかりと連携し、組織的に指導に取り組んでいくことが必要である。 ①-3 補習の出席率については個人差が目立つ。継続した個別の指導が学年全体で必要である。 ②-1、2 生徒が自分で学習を継続す	

		員間での情報の共有を拡充する。 ③ I C Tを用いた授業を充実させるための教職員研修を年間2回以上実施する。	点、英語+3.4点、地歴・公民・理科では地理、化学基礎、生物基礎、物理、化学、生物で全国平均を下回った。 ②-3 教員の教科指導研修会等への参加率は97.0%であった。 ③ 学校全体でのI C T関連の教職員研修は1回実施された。また年間3回実施された教科「情報」に関する教職員研修は5名の教員が全て受講した。	ることができるようにホームルーム活動や授業の中で継続した指導が必要である。 ②-3 受講した教員が他の教員と情報を共有していくことが今後も重要となる。 ③ タブレットは積極的に活用されているが、使い方についての教職員に対する研修や情報共有する機会が必要である。	善に努める。また、生徒が自己の成果を確認できるようなテストを実施する。
		活動計画	活動計画の実施状況		
		①-1、2 生活記録表や生活実態調査を通して、現状の把握に努める。家庭学習が不足している生徒には担任が面談を実施し、原因の解明と改善を図り、具体的なアドバイスをを行う。また進路説明会等で、家庭学習の現状とその重要性を保護者に認識してもらい、積極的なサポートを依頼する。 ①-2 学期に1回生活実態調査を実施し、個人面談で学習習慣の改善を促す。 ①-3 補習に参加することの重要性を繰り返し指導する。担任、学年主任と連携し、遅刻・欠席が目立つ生徒には継続的および段階的に指導を行う。 ②-1 予習、授業、復習の学習スタイルを確立させ、課題や確認テストを実施し、授業内容の理解とその定着を図る。 ②-2 校外模試実施後に訂正ノートを作成し、誤答箇所の見直しをさせる。また教科会で模試の検討を行い、事前と事後の対策を練る。 ②-3 教科指導研修会の情報を周知し、事後は教科会や資料の閲覧を通して情報の共有を図る。 ③ I C T機器を用いた授業を積極的に行うなど、授業改善に努める。	①-1、2 生活記録や生活実態調査を実施した。個人面談の機会を重視し、生活記録を基に具体的な生活改善に関するアドバイスを担任が行った。また学年P T Aでは現状の報告と改善を依頼し、家庭と学校が協力できる体制の構築に努めた。 ①-3 学年集会では補習の意義や進路意識の高揚について指導した。補習の欠席が目立つ生徒には、個人面談を実施し、担任や学年主任を中心に個別指導を継続した。 ②-1 授業外で生徒が取り組むべき学習課題を明確にし、授業に集中できる環境を構築するよう各教科で改善を重ねた。 ②-2 模試受験前には過去問題研究を行い、受験後は訂正ノートの作成を促すなど、教科担任を中心に学力向上に努めた。 ②-3 Web形式での教科指導研修会が充実し、参加しやすい環境が整った。 ③ 特に総合的な探究の時間には、タブレットを積極的に活用した。		
3 生徒指導	①挨拶の励行など基本的生活習慣の確立 ②生徒1人1人の実情に応じた支援とヘルメット着用等の安全教育を推進 ③社会の一員としての公共心の育成 ④いじめ等問題の未然防止、早期発見、早期解決	評価指標 ①-1 頭髪・服装の違反者を減少させ、再点検指導生徒の割合を1%以内とする。 ①-2 遅刻者の数を昨年度より10%減少させる。 ①-3 教員による登校指導を月1回、生徒による「あいさつ運動」を学期に1回実施する。 ②-1 自転車交通事故数を10件以下にする。(昨年度14件) ②-2 自転車通学生ヘルメットの着用について積極的な着用を推奨する。 ③-1 学校安全の日の立哨指導や交通マナーアップキャンペーンを通して自転車の交通マナーの向上に努める。特に並進通行、ながら運転の防止に努める。 ③-2 携帯電話の安全な使い方についての講演会を年1回以上実施する。 ④-1 「いじめは人間として許されない」と全ての生徒に認識させる。 ④-2 「学校は好ましい人間関係の構築のため学校行事やホームルーム活動・授業に真剣に取り組んでいる」と答えた生徒の割合を90%以上とする。	評価指標による達成度 ①-1 再点検を実施した生徒は0名(0%)であった。 ①-2 2学期末の状況で遅刻数が57名(7%)減少した。 ①-3 学校安全の日における登校指導は計画どおりに実施できた。 ②-1 自転車交通事故数(29件)は昨年より20件増加した。 ②-2 自転車のヘルメット着用について始業式、終業式、学年集会などで着用を推進した。また、今年度は2回の交通安全教室を行いその中でヘルメット着用を呼びかけた。 ③-1 学年集会など機会あるごとに交通マナーについて注意喚起を促した。 ③-2 スマートホン安全教室をdocomoよりZoo mで行った。 ④-1 いじめアンケートを学期ごとに行い、「いじめは人間として許されない」と100%の生徒が認識している。 ④-2 「学校は好ましい人間関係の構築のため学校行事やホームルーム活動・授業に真剣に取り組んでいる」と答えた生徒の割合が97%だった。	総合評価 (評定) B (所見) 服装頭髪について数値目標を達成することができた。 遅刻の数が昨年より若干ではあるが減少した。 教員側からの挨拶に対応する生徒は多いが、元よく自発的に挨拶ができる生徒は少ない。 事故件数が昨年より大幅に増加した。大きな事故は発生していないが交通マナーについての苦情等が多い。 いじめのアンケートではほとんどの生徒が良好な人間関係のもと学校生活を送れているようである。しかしながら小さいトラブルは起こっており、いじめに発展することがないように早期に面談等を行って解決している。 健康診断では、概ね目標を達成することができた。学校医等と連携のもと、感染防止に配慮した健康診断が実施できた。	①-1 服装頭髪について大きく乱れている生徒はいないが、スカートを折り込んでいる生徒を見かける。注意すれば素直に直すがその場しのぎの状態である。常日頃から清潔感ある身だしなみができるように連携協力を図る。 ①-2 雨天時や早朝補習がない日に遅刻が増加する傾向は解消されていない。 ②-4 生徒一人一人が自らの心身の健康管理に主体的に取り組むことができるよう継続して支援することが重要である。そのために、保健だよりやホームルーム活動での情報提供についてより一層工夫を図るとともに、家庭や校内外の関係機関とも連携を深めて取り組んでいきたい。 ③-1 ヘルメット着用の呼びかけを粘り強くしていく必要がある。機会あるごとにヘルメット着用に向けての意識向上を行う。 ③-2 ほとんどの生徒がスマートフォンを所持、使用している。今までに起こらなかったようなトラブルも発生し、その使用方法やトラブルなど

		活動計画 ①-1 月初めのクラス単位の服装頭髪指導、学期初めの学年一斉指導を実施する。常日頃から清潔感のある制服の着こなしができるように、学年団と連携・協力をしながら常時指導を徹底する。 ①-2 遅刻指導週間を実施するとともに、多遅刻生徒の指導を徹底する。 ①-3 生徒会や生活委員と協力しながら自発的な挨拶を喚起する。 ②-1 交通事故の状況について、職員・生徒・保護者の共通理解が図れるよう、情報を提供する。 ②-2 入学説明会や学年集会等でヘルメット着用の重要性を認識させる。 ③-1 登校指導を月1回以上、警察署やPTAとの合同指導を年3回実施する。各関係機関と連携し、交通安全教室を行い、自転車の交通マナーを身につけさせる。 ③-2 スマートホン安全教室を行い、情報社会におけるモラルを身につけさせる。 ④-1 生徒一人一人を尊重し、面談等を実施していじめ防止に取り組む。 ④-2 生徒の日常の言動と行動に注意を払い、不適切な場合はその都度指導する。	活動計画の実施状況 ①-1 学期はじめの全体指導やクラス単位での点検を計画どおり実施、また廊下などでの常時指導により、極端に服装頭髪が乱れた生徒はいなかった。 ①-2 雨天時や早朝補習のない日に遅刻が増加している。 ①-3 生徒会や生活委員による挨拶運動を実施した。 ②-1 登校指導を警察やPTAの協力の下予定通り実施した。 ②-3 交通安全教室を2回実施した。2回目については生活委員による生徒主体の交通安全教室を実施した。 ②-4 (ア)健康診断は、多欠席者を除きほぼ100%の受診率であり、個別の事後指導により、生徒の健康状態の把握や事故防止につながった。 (イ)保健だよりを毎月発行した。また、熱中症予防や感染防止の校内放送や、健康課題に応じた保健ホームルーム活動を実施し、保健委員会の活動が活性化された。 (ウ)相談室やカウンセラーを活用し、40件の生徒・保護者の相談や、別室登校の生徒の支援を行った。 (エ)聴覚機器等の特別な支援が必要な生徒・保護者について、外部機関との連絡・調整等に努めた。 ③ 交通安全教室、スマートホン安全教室を予定通り実施した。交通安全教室については予定より1回多く実施した。 ④ 学期ごとに面談週間を行い生徒の悩みや生活を見直す機会を持つことができた。また、いじめアンケートなどによって生徒間のトラブルを早期に発見、対応することができた。	生徒保健委員が主体となって行った目の健康に関する保健ホームルーム活動は好評であった。次年度も学校医、カウンセラー等とも連携し、生徒の実態やニーズに応じた啓発活動や支援を図っていきたい。	の実態把握が難しく正確につかめていない。関係機関の協力を得ながら実態把握に努める。 ④ いじめ事案は発生していないが、生徒間の小さなトラブルはある。いじめに発展しないように初期段階での面談等が必要である。
4 進路指導	①キャリア教育を推進し、主体的な進路選択に向けた支援の充実 ②生徒の能力（可能性）、適性、希望等を踏まえた進路指導	評価指標 ①-1 1、2年次にオープンキャンパスや体験活動への参加、またWebや進路雑誌等での進路研究に各学期に1回以上取り組んだ生徒の割合を100%とする。 ①-2 ポートフォリオを利用し、校外外で取り組んだ活動の振り返りを行う生徒の割合を100%とする。 ②-1 2年次の9月の進路調査で、「進路目標が明確になっている」と回答した生徒の割合を100%とする。 ②-2 公務員セミナーや就職説明会などを通して自ら考える力を育て、就職を希望する生徒全員が進路を実現する。 活動計画 ①-1 あらゆる機会を通して「自分の生き方」を考えさせるとともに、体験活動や進路研究に関する情報の提供に努め、2年生終了までに必ず1回以上取り組ませる。 ①-2 ポートフォリオの意義とその利用方法を周知し、振り返りと記録を徹底させる。	評価指標による達成度 ①-1 全生徒（100%）が進路研究を行った。 ①-2 紙媒体を利用して、100%の生徒がポートフォリオを作成し、活動の記録、振り返りを行った。 ②-1 9月に実施した進路調査では、2年生の100%の生徒が進路目標が明確であると回答した。 ②-2 個別・全体指導を通じて情報提供や意見交換に努め、就職希望者はほとんど全員が就職内定した。 活動計画の実施状況 ①-1 Web利用やリモート配信で実施されるイベントの周知を行い、積極的な参加を促した。コロナ禍以前と比較し、多種多様な学部のイベントへの参加が見受けられた。 ①-2 振り返りレポートの作成を通し、自己の取組を客観視できるよう促した。	総合評価 (評定) B (所見) ①-1 ホームルームや学年集会を通して進路研究の重要性を継続して指導した。Web利用が主となり、具体的なイメージを抱きにくい状況が見られた。 ①-2 時期を設定して活動の振り返りを行うことができた。今後はその利用方法を具体化し、進路選択に直結させる指導が必要である。 ②-1 2年生2学期までに具体	①-1 Web利用が増加し、実体験を基にした進路研究が困難な現状が見られる。限定的な進路研究ではなく、多方面に視野を広げることのできる機会を得られるよう、幅広い情報の提供と機会の確保を行う。 ①-2 3年間を通して、記録を長期的かつ有効に利用し、主体的な進路選択へさらに発展させられるよう、指導体制を拡充する。 ②-1 進路ホームルームや個人面談をさらに充実させ、学年・時期に応じて求められる内容や課題を精選し、達成目標を明確にする。 ②-2 就職を希望する者に対し、2年生後半から具体的なサポートをさらに拡充させる。特に、面談の機会を十分に確保し、生徒・保護者への情報提供や意向を確認する機会を継続して設ける。

		②-1 生徒や保護者に進路情報を提供し、各自の進路目標を設定させ、その実現に向けて主体的に学習する態度を育成する。また「若楠」や「進路ニュース」、「創立記念日の卒業生の講演会」などを活用し、進路意識の高揚を図る。 ②-2 望ましい職業観、勤労観の育成に向け、公務員セミナーや就職説明会を通して職業理解を進め、働く意義を学ばせる。	②-1 「若楠」「進路ニュース」「学年PTA資料」「学年集会スライド」では、入試や進路情報を掲載・周知し、進路意識の高揚に努めた。 ②-2 各種イベントを活用したり、生徒・保護者との情報の共有や面談を継続したりして、職業観や勤労観の醸成に努めた。	人面談および三者面談を継続する必要がある。また情報収集とその共有を継続し、望ましい選択を支援する必要がある。	
5 特別活動	①部活動や生徒会活動の活発化を通じて、所属感・連帯感を強化 ②ホームルーム活動や学校行事を通じて、温かい人間関係を確立	評価指標	評価指標による達成度	総合評価	新型コロナウイルス感染症が第5類扱いになったこともあり、北高祭や予餞会などの行事を計画・実施する際は、感染対策に振り回されることはなかったが、新型コロナウイルス感染症・インフルエンザがまた流行することも考えられる。状況に合わせた開催をできるように常にアンテナを張り新しいものに挑戦しながら効率よくできる方法を模索していく。 生徒会の活動は各行事の実施に際して、自主的・積極的な活動ができていた。しかし、全校生徒全てが自主的・積極的な活動ができているかというと、そこまでは至っていない。 各行事ごとの生徒や教員へのアンケートなどを参考にしながら、次年度に向けて生徒や教員の意見が反映されるよう、計画の段階から配慮していきたい。
		①-1 学校評価アンケートにおいて「学校行事に自主的・積極的に取り組むことができた」と回答した生徒の割合が、80%以上とする。 ①-2 学校評価アンケートにおいて「学校行事や生徒会行事には、生徒の意見が取り入れられている」と回答した生徒の割合が、80%以上とする。 ②-1 学校評価アンケートにおいて「あなたは、学校行事や部活動に友人や仲間と協力して取り組み、友好的な人間関係を築くことができた」と回答した生徒の割合が、80%以上とする。 ②-2 学校評価アンケートにおいて「生徒は学校行事に自主的に取り組み、望ましい人間関係を構築できている」と回答した教員の割合が、80%以上とする。	①-1 「学校行事に自主的・積極的に取り組むことができた」と回答した生徒が97%であり、目標を達成できた。 ①-2 「学校行事や生徒会行事には、生徒の意見が取り入れられている」が88%であり、目標を達成できた。 ②-1 「あなたは、学校行事や部活動に友人や仲間と協力して取り組み、友好的な人間関係を築くことができた」が98%であり、目標を達成できた。 ②-2 学校評価アンケートにおいて「生徒は学校行事に自主的に取り組み、望ましい人間関係を構築できている」が97%であり、目標を達成できた。	(評定) A	
		活動計画	活動計画の実施状況	(所見) 本年度より、新型コロナウイルス感染症が第5類扱いになったこともあり元の状況にできるだけ戻しながら実施となった。北高祭は、文化祭・体育祭ともに、感染流行前の状況からより効率よく実施できるように配慮した。制限もあったのだが、その中でもなんとか生徒の思い出に残るものが実施できた。 生徒会の活動も北高祭や、予餞会などの実施に際して、自主的・積極的な活動ができた。しかし、全校生徒全てが、自主的・積極的な活動ができているかというと、そこまでは至っていない。他の項目に比べて、「学校行事や生徒会行事には生徒の意見が取り入れられている」と回答した生徒の割合が低いことからわかる。 各行事ごとの生徒や教員へのアンケートなどを参考にしながら、次年度に向けて生徒や教員の意見が反映されるよう、計画の段階から配慮していきたい。	
6 国際理解教育	①豊かな国際感覚と英語コミュニケーション能力の育成 ②異文化理解、国際協調の精神の醸成	評価指標	評価指標による達成度	総合評価	本年度は新型コロナウイルス感染症の5類移行により、海外での語学研修を4年ぶりに実施することができた。次年度も国際英語科1年生を対象に海外語学研修を実施する予定であり、引き続き準備や事前研修に注力する必要がある。また、1・2年生普通科生を対象とした福島での国内語学研修を実施する予定であり、実施に向けて関係機関と協力しながら準備を進めていく。また、海外生徒や国際貢献に意欲的に取り組む団体等とのオンラインによる交流学习をより円滑にするため、ソフト面・ハード面での条件整備を課内で行うことが重要である。加えて、海外留学生の積極的な受入は、本校生の意識を高めるのに効果的である一
		① パフォーマンステストを年3回実施する。 ② 異文化学習をする機会の提供を年間3回以上とする。	①② 「海外語学研修（2年生希望者）」、「海外語学研修（1年生国際英語科）」、「English Day」、「サギノーパーレー州立大学生との交流会」、「台湾高校生教育旅行の受け入れ」の5事業を実施した。	(評定) A	
		活動計画	活動計画の実施状況	(所見) 4年ぶりに「海外語学研修」を実施することができた。国際英語科1年生の海外語学研修においては、台湾や中国からオーストラリアへ留学している生徒への日本文化についての発表の場もあり、プレゼンテーション技術を高めることができた。「台湾高校生との交流」では、あいさつや表面的な交流にとどまらず、国際社会における諸問題など様々な知識を背景にした意見交換を意欲的にすることができた。	
		① 外部より講師等を招いて、グローバルな視点に立った考え方を受容するとともに、発信の練習をする。 ②-1 海外からの留学生の受け入れや、県内に在留する外国人との交流を通して、異文化に対する理解を深める。 ②-2 2年生の希望者及び1年生国際英語科を対象にオーストラリアでの語学研修を実施する。	① English Dayでは、国際英語科1年生が日本文化について紹介したり、国際英語科2年生が県内のALTとディベートしたり、国際英語科3年生が与えられたテーマに基づくプレゼンテーションを行った。普通科1・2年生は、ALTへのインタビューと聞き取った情報を活用したゲームを実施した。ともに幅広い話題について話し合うなど交流活動を行った。		

			「サギノーバレー州立大学生との交流会」では、大学生と大学での学習内容や学生生活などについて意見交換を行った。 ② 長期留学生として2名（スウェーデン、オーストラリア）が来校し、1学年に在籍し学習している。「台湾高校生教育旅行の受け入れ」では、台南市聖功女子高級中学校の生徒と交流活動を行った。三味線体験やレクリエーション、SDGsについてのディスカッションなどを行った。 ③ 「海外語学研修」は、8月に2年生56名が、12月に国際英語科1年生38名が参加した。研修先は、オーストラリア クイーンズランド州スプリングフィールドのUnion Institute of Languageであった。オーストラリアの歴史や文化を学んだ。期間中はホームステイをすることにより、現地での生活についてより深く学ぶことができた。		方、留学生の資質で生徒に悪影響が出る場合も考えられるので、今後ともどのような留学生を受け入れるべきか、斡旋機関との連絡を密にし、できるだけ選ぶ段階で関わり、本校職員の意見を取り入れていくことが大事であると考える。
7 環境教育	①環境問題に取り組む態度と実践力の育成 ②脱炭素社会の実現に向けて、持続可能な社会の担い手を育成	評価指標	評価指標による達成度	総合評価	次年度も節電・節水を呼びかけて教室掲示などを行う。特に夏季のエアコン使用については、使用する時間の制限を設け、節電に努める。 「働き方改革」に従い教員が早く退出することが節電や節水になるので協力をお願いしていきたい。 ごみの分別は、年度途中で分別方法を変更したことにより良くなってきたが、不十分な所もあったので、継続して啓発活動を行う。 校外清掃活動には、多くの参加者により実施できているので継続していきたい。 学校評価アンケート（保護者）の間14「校内は清掃できていると感じる。」のあてはまる・ややあてはまるの数字が、昨年度の81%から今年度87%に上昇した。校内清掃についても指導の徹底を図りたい。
		①-1 節電・節水を意識した学校生活を送り、使用量を前年度比-2%以下とする。 ①-2 「ゴミゼロの日」を設定することで、学校全体で環境問題について意識を高めるとともに、年間3回以上の学校周辺清掃を実施し、環境・防災委員以外の参加者を毎回60名以上とする。 ② 校外で行われる環境美化及び環境問題に取り組むボランティア事業への参加を呼びかけ、年間参加者20名以上とする。	①-1 節電については、ほぼ目標を達成することができたが、夏季の7月と9月のエアコン使用による電気使用量が前年度より1%～2%増えた。節水についてはトイレの改築により大幅な改善が見られた。 ①-2 計画どおり3回実施した。各クラスの環境・防災委員以外のボランティア参加者が毎回60名以上あった。参加者は最後まで熱心の清掃活動に取り組んだ。 ② 今年度は、JRC部担当教員からボランティア活動の案内をしていただき、小松海岸清掃活動に数名の生徒が参加した。	（評定） B	
		活動計画	活動計画の実施状況	（所見） コロナ禍による行動制限が解除され、学校での活動が活発になってきたので、水道使用量・電気使用量が増えることが心配されたが、全体的には使用量は減少している。水道使用量については、トイレの改築により大幅に使用量が減少した。電気使用量については、夏季のエアコンの節電をいかに進めていくかが重要であると考えられる。 校外清掃活動には、環境・防災委員だけでなく多くの参加者により年間3回実施することができた。 ごみの分別や日々の清掃については不十分な所もあり来年度の課題としたい。	
8 防災教育	①災害への対応能力・判断力・行動力の育成 ②自助・共助・公助の視点で、災害時に役立つ人材の育成	評価指標	評価指標による達成度	総合評価	各種の避難訓練に対して、生徒一人一人が主体的に緊張感を持って取り組めるようにするために、まず教職員の防災意識の向上が必要であると考えられる。本校は、徳島市・北島町・藍住町の津波一時避難場所であり、徳島市の避難所に指定されているので教職員の共通理解が必要である。 本校での地域住民による避難訓練の実施については、地域の自主防災会から要望があり、避難経路や避難場所の確認等、無理のない範囲で取り組みたい。 本年度文化祭の環境・防災展示に
		①-1 地震・津波及び地震・火災対応避難訓練をそれぞれ年1回早期に実施するとともに、想定外津波避難訓練も状況に応じて1回実施する。 ② 校内外で行われる防災関係の行事を案内し、環境・防災委員以外の生徒の参加も募る。防災士講習会参加者について、新規防災士登録者を2名以上とする。	①-1 計画どおり4月に地震・津波避難訓練を実施した。12月には地震・火災避難訓練を実施し、避難訓練だけでなく通報訓練や生徒を対象にした消火訓練と起震車体験を行った。 ①-2 想定外津波避難訓練の代わりに12月に地域の自主防災会との交流会を実施した。防災クラブの生徒が校内を案内し災害時の避難経路や避難場所の確認をした。 ②-1 校外での防災関係のボランティアを募集し、多くの生徒が参加した。 ②-2 防災士の募集をしたが、経済的な負担や部活動等で希望者はいなかった。	（評定） B	
				（所見） 年間2回の避難訓練や起震車体験・消火訓練に多くの生徒が熱心に取り組み、実際に体験をすることで防災意識の向上につながった。 地震による津波や火災発生時の避難経路と避難場所の確認をしておくことは大変重要であるが、実際に行動して確認することでより徹底することができた。	

		活動計画 ①-1 避難場所や避難経路・方法などを充分周知させる。 ①-2 環境・防災委員会により、文化祭時に展示による啓発活動を行い、全校生徒の防災意識の向上を図る。 ② 校内での防災関係講習会を行う予定であり、また校外講習会は案内が届きしだい案内及び募集する。防災士講習も同様に環境・防災委員を中心に募集し、文化祭時に活動報告を行うことで、その成果を全校生徒と共有する。	活動計画の実施状況 ①-1 年度初めの地震・津波避難訓練と12月の地震・火災避難訓練により、避難場所や避難経路について周知徹底ができた。 ①-2 文化祭において掲示物の作成・展示だけでなく、NHK徳島放送局のご協力によりAR浸水体験やハザードマップモニターによる展示を実施した。多くの来場者があり防災意識の高揚につながった。 ② 今年度は、8月に防災関係講習会に変えて徳島市・北島町・藍住町の防災担当者や各地域の自主防災会の代表者に来校していただき交流会を実施した。	防災クラブと地域の自主防災会との交流会は、一緒に行動することによりクラブ員の防災意識の向上につながった。 文化祭において、従来の課題研究の展示だけでなく、AR浸水体験やハザードマップモニターによる展示を防災クラブの生徒が、来場者にわかりやすく説明し、大変好評であった。	において実施したAR浸水体験やハザードマップモニターは、災害の疑似体験ができるので来場者に好評であったので来年度も実施したい。
9 主権者教育・消費者教育	①「18歳成年時代」を迎え、主体的に社会参画できる人材の育成 ②SNS上の契約トラブル回避など、自立した消費者の育成	評価指標 ①-1 主権者教育、消費者教育に関する授業や学校行事等を年5回以上とする。 ①-2 「政治や選挙への関心が高まった」と答えた生徒の割合を80%以上とする。 ② 外部の関係機関と連携した授業を年1回以上とする。 活動計画 ① 主権者教育では、大学教授等による出前授業や選挙管理委員会による模擬投票などを行う。 ② 消費者教育では、1・2年生で外部講師による講演会等を行う。	評価指標による達成度 ①-1 評価指標を達成した。 ①-2 78%で評価指標を達成できなかった。 ②評価指標を達成した。 活動計画の実施状況 ① 2年生で、12月に徳島市選挙管理委員会による出前講座として模擬選挙を実施した。 ② 2年生で、7月に鳴門教育大学大学院教授による講演会を実施した。	総合評価 (評定) B (所見) 学校行事は、2年生が中心であったが、他学年では公民科や家庭科の授業を中心に、関連する課題について考えた。	授業の中だけでなく、機会を捉えて外部の関係機関との連携を推進する。
10 教職員の資質向上	①コンプライアンス（法令遵守）意識高揚 ②教職員1人1人が学校経営の当事者意識を持ち、組織として教育目標を実現 ③ペーパーレス化推進による業務の効率化、ワーク・ライフ・バランスの改善	評価指標 ① 年2回のe-ラーニング研修(コンプライアンス推進室主催)を全教職員が受講するとともに、各学期に1回の全体研修及び職員会議や職員朝礼における注意喚起を年間12回以上とする。 ② 目標管理シートを活用した校長との面談をすべての教員が年2回以上実施し、最終申告の自己評価で総合評価がB以上とする。 ③ タブレットPCを活用しすべての会議資料のペーパーレス化を徹底する。出退勤管理システムを積極的に活用し、教員勤務時間の把握を行い、時間外在校等時間の削減に努める。また、部活動の適正化を図り、平日は午後8時までの生徒の完全下校を徹底する。 活動計画 ① 年2回のe-ラーニング研修(コンプライアンス推進室主催)を全教職員が受講するとともに、各学期に1回の全体研修及び職員会議や職員朝礼における注意喚起を年間12回以上実施する ② 学校の教育目標を実現するための「教員の育成・評価システム」を確立し、全教員が年度当初の申告に基づいた教育ができるように管理職が積極的に助言や指導を行う。 ③ GIGAスクール推進を図りペーパーレス化をはじ	評価指標による達成度 ① 年2回のe-ラーニング研修は全教職員が実施できた。また、時機に応じた注意喚起も12回以上実施できた。 ② 目標管理シートを活用した学校長との面談は年2回実施することができた。目標管理シートの最終申告で、すべての教員がB以上の自己評価を行った。 ③-1 日々の職員朝会や職員会議はほぼペーパーレス化ができた。 ③-2 毎月の平均時間外在校時間を把握し、職員健康管理医の指導の下、多い状況が続く教職員には面談を行うなど超過勤務の減少に努めた。 ③-3 部活動数を一つ減らし、顧問の配置など部活動の適正化を図った。平日の午後8時完全下校は達成できている。に向けた行事・業務の見直しを行 活動計画の実施状況 ① 時機に応じた注意喚起や研修を行ったが、研修の受講状況からも教職員のコンプライアンス意識は高い。 ② 学校長との面談は年2回実施し、個々の目標達成に向けた適切な取組が進むよう効果的な助言と指導を行った。 ③-1 ClassiやTeamsを活用した各種アンケートや採点システムの導入、Zoomによる学校行事や集会の開催等、ICTの活用で業務の効	総合評価 (評定) B (所見) 教職員のコンプライアンス意識が高く、ほとんどの教職員が自分事として捉え研修に取り組めた。また、目標管理シートを活用した教員の「育成・評価システム」により、学校教育目標に沿って、すべての教職員が、組織の一員として当事者意識を育みながら課題解決に取り組んだ。 校内の働き方改革推進に向け 業務改善シートを活用し、次年度	より良い教育活動が効率的に実施されるよう、学校DXを推進する。保護者の連絡手段のデジタル化やClassiやTeamsを活用した生活学習記録のデジタル化等、校務の効率化、省力化を推し進めることにより、生徒と向き合う時間や授業力向上のための時間を増やし、生徒、保護者、教職員のすべてにとってより良い学校づくりを推進する。

		め業務の効率化を徹底するとともに、各業務の見直しを徹底する。また出退勤管理システムの活用により教員自らがタイムマネジメントを行い、年休取得の励行と時間外在校時間の減少に努める。	率化が図れた。 ③-2 出退勤システムを活用した勤務時間の把握により、平均時間外在校時間の削減に努めた。	
--	--	--	---	--

学校関係者の意見

- ・本年度の目標基準は、達成している。
 - ・自転車のヘルメット購入については、自治体の補助金等を利用するようにできないか。
 - ・ヘルメットをかぶるという意識を持つことが、かっこいいというようなポスターにすればいいのではないか。
 - ・入学説明会の時に、ヘルメットを提示し購入してもらうようにして、1年生から着用してもらう取組をしてはどうか。
 - ・国際理解教育は、欧米に目を向けるだけでなく、他の地域にも目を向ける工夫をしてはどうか。
 - ・語学研修の中学生との座談会は、非常に有意義であったので、来年度も継続して欲しい。
- 生徒からの要望で、災害時に避難しやすいように、スリッパから上靴に変更して欲しいという意見があったが、同様にヘルメットの着用についても生徒側から行動を始める動きにつなげることができないであろうか。